

玉川学園は 2006 年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。
 小学部から高等部までの各学年を 1～12 年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。
 Primary Division (幼稚部および 1～5 年) = 幼稚部および小学校 1～5 年
 Secondary Program Division (6～12 年) = 一般クラスの小学校 6 年～高校 3 年
 IB Programs Division (6～12 年) = IB クラスの小学校 6 年～高校 3 年

2021 年度 玉川学園学校評価 (自己評価結果)

評価規準	2021 年度の課題・重点施策	2021 年度自己評価	
		2021 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2022 年度の課題と改善方法 (2022 年度の課題・重点施策)
<p>目的 (01) : 重要な使命の共有 Purpose (01) : Sharing an important mission</p> <p>規準(0101) : 目的 Standard(0101) : Purpose</p> <p>0101-01 学校の統括組織および学校リーダーは、全人教育、学習指導要領と IB の理念と使命、IDEALS に沿って、学習目的を明確化すること。</p> <p>0101-02 学校の教育的リーダーシップチームは、生徒が能動的で思いやりのある、生涯にわたり学び続ける学習者になることを奨励する教育的アプローチを採用すること。</p> <p>0101-03 学校のコミュニティーは、「12 の教育信条」「IB の学習者像」のすべての人物像を体現する国際的な人材を育成すること。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新学習指導要領に基づいて定められた教育課程が、全人教育の理念、IB の理念と使命、IDEALS に基づいて実施されるように、K-12 全体、各ディビジョンで徹底する。(0101-01) ● 学園教学部が教務委員会と協働しながら、教育理念に基づいた上で「何が出来るようになるのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか」についての研修計画を立てて実施する。(0101-02) ● 12 の教育信条、IB の学習者像について教職員が学ぶ機会、またそれに基づいて生徒が学ぶ機会を積極的に計画する。(0101-03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制をスタートさせ、各ディビジョンの教育部長を中心とし、全人教育の理念のもとに K-12 一貫教育を推進することができた。(0101-01) ● 教務委員会中心の学内教員研修として、11 月 17 日 Primary (1-5) の授業研究をオンラインで実施。K-12 教科部会で振り返りを行う。(0201-02) ● 全人教育提唱 100 周年を記念した書籍を全教職員に配付し、全人教育への理解を深める。K-12 父母会と連携をし、保護者への配付も進める。教職員への啓蒙の意味で 12 の教育信条、IB 学習者像、IDEALS を記載したカードを配付する。(0101-03) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 を教職員間で共有し、創立 100 周年を見すえ全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。IB の理念や IDEALS の考え方を K-12 全体で共有し、現場の指導にあたる。(0101-01) ● 全人教育の理念に基づき、新しいディビジョン体制の中で一貫した指導体制をとれるように、教務委員会と協働し研修計画を立て、実施する。(0201-02) ● 全人教育における、12 の教育信条の周知徹底、「玉川っ子」の概念の共有、IB の学習者像の共有を図り、共通の理念に基づく教育活動を積極的に展開する。(0101-03)
	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 園児一人ひとりが、他者への思いやりを育みながら主体的に学び、協働して物事に取り組むための教育内容、環境設定を計画する。(0101-02) ● 12 の教育信条、IB の学習者像(Learner Profile)について教員が学ぶ機会、またそれに基づいて園児がよりよい自分の姿を目指せるような工夫を行う。(0101-03) 	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コロナ感染対策に伴う制約を受けながらも、状況に応じて、学びの環境設定を柔軟に変更し、開催方法を工夫して各行事に取り組んでいる。(0101-02) ● 学校説明会や各部の広報用パンフレットの内容を教員間で共有するとともに、園児自身が「玉川っ子」の目標を知り、「玉川っ子らしさ」について考える機会を設けている。(0101-03) 	<p>【担当部長 (幼稚部担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各行事の開催時期や内容の見直しを図るとともに、自発的な遊びの時間の目的や環境設定について研修や振り返りを積極的に行う。(0101-02) ● 全人教育に関する書籍や関係パンフレット等を陳列し共有するための書棚を職員室に設置する。年齢に応じて、各教室に「玉川っ子」の目標をわかりやすく掲示する。(0101-03)
	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2021 年度の教育実践組織を作成、各教員が全人教育の理念の上に教育活動を展開する。(0101-01) ● 「玉川っ子」の約束を徹底し、「望ましい玉川っ子」像を明確にし、児童と教師、保護者が一体となって指導する。(0101-02) 	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念に基づいた教育目標を掲げ、全教員が今年度の重点目標を作成し、教育活動を実践した。(0101-01) ● 児童一人ひとりが「きれいな心」「よい頭」「つよい体」の玉川っ子の具体的な目標を立て、「望ましい玉川っ子」像を明確にし、児童と教師、保護者が一体となって指導に当たった。(0101-02) 	<p>【教育部長 (K-5 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Tamagawa Vision 100 を教職員に徹底し、創立 100 周年を見すえ、改めて全人教育の理念のもとに教育を推進する。(0101-01) ● 「玉川っ子」の約束の内容を再確認し、児童と教師、保護者が一体となって全人教育の今日的な解釈に基づく教育活動の実現を目指す。(0101-02)
	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念、IB の理念と使命、IDEALS に基づき、新学習指導要領に定められた教育課程を実施する。(0101-01) ● 12 の教育信条と「主体的・対話的な深い学び」を具体的に企画立案し実施する。(0101-01) ● 急激な社会変化に対応できるよう、自らの学習を「計画立案・実行・評価」できるような教育アプローチを立て実施する。(0101-01) ● グローバルな人材を育成するために、語学力育成以外にもいろいろな授業での協働的な学習・異文化理解などを通して、児童生徒を育成する。(0101-03) 	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念に基づき、新学習指導要領に定められた教育課程をすすめることができた。(0101-01) ● 12 の教育信条と「主体的・対話的な深い学び」を実践するために、学年会、教科会などで話し合いを繰り返し行った。(0101-01) ● 「計画立案・実行・評価」できるような学習カリキュラム作りを検討し実践したが、更に改善の余地がある。(0101-01) ● グローバルな人材を育成するために、語学力育成以外でできる活動について検討を行った。(0101-03) 	<p>【教育部長 (6-12 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念のもとに、2022 年度から実施される高校の学習指導要領に準じた教育課程を実施する。(0101-01) ● 12 の教育信条と「主体的・対話的な深い学び」を実践するために、2022 年度から 6 年生までに広がる BYOD に対応する授業を実施する。さらに ICT 活用スキルの向上研修を行う。(0101-01) ● 「計画立案・実行・評価」できる学習カリキュラムの内容を共有し改善案の検討をする。(0101-01) ● グローバル人材の育成として、教科、行事、HR 等の活動内容の方向性を継続検討する。(0101-03)

<p>目的 (01) : 重要な使命の共有 Purpose (01) : Sharing an important mission</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Zenjin education and its 12 Precepts to be introduced and reinforced with IB foreign staff through reading material, professional development workshops and reflection opportunities, led by new IB leaders and teachers formerly of the non-IB mainstream and other Tamagawa staff. (0101-01,03) <p>全人教育および12の教育信条について、IB Programs Division 所属の外国人教員に対し、新規 IB 管理職や新たに IB に所属する日本人教員、その他教職員の協力のもと、資料提供、学内研修、振り返り等の機会を通じて紹介し、IB 教員全員が理解を深め共有できるようにする。(0101-01,03)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Mr. Obara's recent book, 100 Years of Zenjin Education: Footsteps into the Future, has been distributed to all IB teachers. Nine teachers formerly of the Primary, Middle and Upper Divisions have been transferred into the new IB Programs Division, where they mostly serve as leadership members and homeroom team leaders. These teachers, with more background information and experience with formal aspects of Zenjin education, have been disseminating this knowledge to less experienced staff members. Regular religious services, morning outside assemblies, student self-study classes and other opportunities have been adopted into the new IB Programs Division to help with this dissemination to both teachers and students. (C) <p>「全人教育の歴史と展望」(小原芳明監修,2021)が IB Programs Division 所属の外国人教員を含む全教員に配布された。旧低・中・高学年所属の9名の教員が新たに IB Programs Division に配属し、主に管理職やホームルームチームのリーダーとして活躍している。この9名の教員は、全人教育におけるより詳しい知識と経験を持ち、経験の浅い教員たちにその知識を伝えている。また、礼拝や朝会、自由研究などを IB Programs Division での学校生活にも取り入れ、教員および児童生徒の双方への普及に努めている。(C)</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Much more needs to be done in this area in 2022 and the years to come. The Division will continue lobbying for a (series of?) bilingual workshop(s) to be developed and held for the benefit of IB teachers and leadership, to educate and gauge their understanding of the foundations and overall philosophies of Zenjin education. (0101-01,03) <p>2022 年度以降も引き続き多くの取り組みを行う必要がある。全人教育の基礎や理念、考え方を教員が学び、理解を深めるための、教員と管理職に向けたパイリンガル教員研修(複数回にわたるシリーズ化)の実施に向けて調整する。(0101-01,03)</p>
	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3つのセンター(ES センター、K-12 国際教育センター、MMRC)の運営が、全ての子ども達の可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向かうよう、事業計画にその内容を盛り込む。(0101-02) ● アカデミックサポートセンターが計画する学習支援は、自学自律や国際教育、労作教育等、12の教育信条に基づいたプログラムとなるように、各ディビジョンおよび学園教学部と連携を図る。(0101-03) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 国際教育センターでは、体験型英語学習研修や ELF 教員による異文化理解講座等を企画・運営した。MMRC では電子書籍を導入し、オンライン授業日においても読書活動の機会を提供することが出来た。(0101-02) ● 学習支援の計画については、3つのセンターが事務局を担当する各委員会(ES・K-12 国際教育・EdTech 推進・思考力育成)の場で検討し、各ディビジョンおよび学園教学部と連携を深めた。(0101-03) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3つのセンター(ES センター、K-12 国際教育センター、MMRC)が実施する事業は、Society5.0 に対応した新しい学びのスタイルを意識した中で行われるよう、事業計画にその内容を盛り込む。(0101-02) ● K-12 一貫教育体制をより強固にする附置機関としての役割を担うべく、K-12 各ディビジョンおよび玉川大学・他部署との連携・協働を更に推進し、子ども達への学習支援の充実化を図る。(0101-03)
	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育のもと、新 K-12 のカリキュラムが系統的になっているかの確認のため、学内研修会や K-12 教科会を積極的に行う。(0101-01) ● 自らの学習を「計画立案・実行・評価」できるような教育アプローチが立てられるよう、授業や自由研究・学びの技の進め方などの研修を実施する。(0101-02) ● 各教科会や学年行事などでも、国際的な人材育成のためのカリキュラムや企画を検討し、実践できるよう働きかけをする。(0101-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育のもと、新 K-12 のカリキュラムが系統的になっているかの確認を、K-12 学内研修会や K-12 教科会で行うことができた。(0101-01) ● 自らの学習を「計画立案・実行・評価」できるような教育アプローチが立てられるよう、授業や自由研究・学びの技の進め方などの検討を、各教科会で進めることができた。(0101-02) ● 国際的な人材育成のためのカリキュラムについて、学年会や教科会で検討を行った。(0101-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 のカリキュラムが、全人教育にそっているかの確認のため、引き続き K-12 学内研修会や K-12 教科会を行う。(0101-01) ● プランナーなどをつかって計画的に学習できるよう指導する。さらに、学びの技や各自自由研究の指導方法を共有し、進め方などの研修を実施する。(0101-02) ● 国際教育において、効率的に指導するために、各教科どの分野を指導するかを共有し、グローバル人材育成のカリキュラムを検討する。(0101-03)
	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 全人教育の理念と IB の教育理念の基に、児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を行う。(0101-01) ● K-12 いじめに関する基本方針の基に、児童生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送る、いじめの起こらない学校創りを家庭と共に行う。(0101-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念と IB 教育理念の基に、児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を進める事ができた。(0101-01) ● いじめに関する基本方針の基に、児童生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送る、いじめの起こらない学校創りを家庭と共に行っているが、軽度な事案がある。(0101-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全人教育の理念と IB 教育理念の基に、児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を行う。(0101-01) ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針の基に、児童生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校創りを家庭と共に行っていく。(0101-01)

評価規準	2021年度の課題・重点施策	2021年度自己評価	
		2021年度の課題・重点施策に対する達成状況	2022年度の課題と改善方法（2022年度の課題・重点施策）
<p>環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources</p> <p>規準(0201)：リーダーシップおよび統括体制 Standard(0201)：Leadership and governance</p> <p>0201-01 学校は、プログラムの実践と現在行われている教育の改善をサポートするため、学習指導要領およびすべての IB 規則、規定、およびガイドラインを定期的に見直し、遵守すること。</p> <p>0201-02 学校の教育的リーダーシップチームには、IB プログラムの実践を成功に導く権限を与えられた IB の訓練を受けたプログラムコーディネーターを含めること。【IB ディビジョンのみ】</p> <p>0201-03 学校は、幅広くバランスがとれ、関連性の高いカリキュラムを提供し、地域社会の変化するニーズに対応する学習と指導の時間を編成すること。</p> <p>0201-04 学校は、K-12 教育課程、IB プログラムの運営と持続可能性を向上させるためのシステムとプロセスを運用し、見直しを行うこと。</p> <p>0201-05 学校は、K-12 教育課程と IB プログラムを維持し、さらに発展させるため資金確保とリソースの分配を行うこと。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学園部長会、K-12 協議会、教務委員会は、2021 年度から実施される中学校学習指導要領、2022 年度から実施される高等学校学習指導要領の内容を再確認し、目標、内容、指導方法に不足がないようにする。(0201-01) ● 2021 年度から始まる新ディビジョン体制の状況を反映させた、各ディビジョンの 2022 年度予算再配分を学園教学部が中心となつて行う。(0201-05) ● 新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、対面授業とオンライン授業を効果的に併用できるように、オンライン授業環境の一層の充実を図る。(0202-01) ● 教師の経験、現在取り組んでいる個別の課題に応じた研修への参加をサポートする。(0203-02) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Secondary Program Division を中心に、新指導要領に則ったカリキュラム作成に取り組み、2022 年実施の高等学校課程の準備を進めた。(0201-01) ● 部長連絡において、K-12 教育体制の現状を共有し、各ディビジョンの特性に配慮し、学園教学部を中心として予算案を策定した。各部長が K-12 全体を把握するために、予算説明及び、決算報告を共同で実施した。(0201-01) ● 新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンラインと対面のハイブリット型の授業を展開することができた。(0202-01) ● コロナ禍という事情もあり、教師の個別の課題に応じた研修のサポートについては不十分であった。(2003-02) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学校学習指導要領、及び、高等学校学習指導要領にのっとり、玉川学園の教育課程の実施を通して、その目標、内容、指導方法を再確認する。(0201-01) ● 新ディビジョン体制の安定的な運営を目指して、予算の効率的な運用が図れるよう、学園教学部が中心となり予算配分計画を立てる。K-12 の収支均衡を目指す。(0201-01) ● ハイブリット型の授業展開を確立するとともに、状況に応じて対面とオンライン授業を効果的に活用できるような環境作りを行う。(0202-01) ● 各個人の教師力向上を目指し、オンライン、及び、対面の研修に積極的に参加できるようサポートをする。(2003-02)
	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育活動の振り返りを元に活動内容を整理し、教育カリキュラムの更新作業を継続する。また各学年の目標、活動のねらい、指導方法、評価方法等について再確認する。(0201-01) ● 質の高い幼児教育を目指しつつ、バイリンガル教育、延長教育プログラム(ES)の充実、拡張を図り多様なニーズに対応する。(0201-03) ● 新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、園生活とオンライン活動を効果的に併用できるよう環境を整える。(0202-01) ● K-16 連携活動の継続と充実を図る。(0202-05) ● 教員の指導力、教育活動の質を高めるための研修を計画する。(0203-03) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 年間で 8 期に分けて各学年の目標や期毎のねらい、活動内容等を設定している。また各週の活動計画、記録として「週日案」を作成し、常に実践内容の振り返りを行っている。(0201-01) ● 8 期に合わせて 8 つの活動ユニットを設定し、英語カリキュラムの再構築を行っている。ES では、新講座「リトミック」を開講した。(0201-03) ● 2 学期開始時は、第 5 波への対応として対面活動を午前中のみとし、午後はオンライン活動を実施した。(0202-01) ● 農学部、工学部、学術研究所との連携を継続している。(0202-05) ● 各教員が任意で外部のオンライン研修に参加した。(0203-03) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新を継続する。(0201-01) ● 2022 年度中にバイリンガル教育のための時間割、2023 年度中に 8 期の英語カリキュラムの完成を目指す。(0201-03) ● 感染状況に応じて柔軟に対応できるよう、オンライン環境の維持・改善につとめる。(0202-01) ● メーカーズルームとの連携を模索するための教員研修、見学等を実施する。(0202-05) ● 園内研修、学部講師を招いての研修を再開する。(0203-03)
	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン授業を通して、対面授業と同様に、学習指導要領の内容が確実に学ぶ事ができるようにする。(0201-01) ● 教務主任（K-5BLES 担当）を設置し、JP クラス、EP クラスとも Bilingual プログラムの推進を行う。(0201-02) ● Secondary Program Division および IB Programs Division との連携の取れた 1～5 年生のカリキュラムの構築を図る。(0201-04) ● SH の中で、海外から転入した日本語能力の低い児童や、学習に躓いている児童へのサポートの在り方を検討する。(0202-01) ● EP クラス 3～5 年生全体の中で、BSH の時間を見直し、より効果的な学習サポートの方法を検討する。(0202-02) ● 主任教員による授業点検の継続的な実施を行う。各教科部会主体の授業研究を推進する。(0203-01) ● EP クラスの授業研究（3 年生以上の教科指導）を実施し、授業力向上を図る。(0203-01) ● 各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りを行う。宿泊行事等にも外国籍教員の積極的な参加を促し、チームで指導に当たる体制を作る。(0203-03) 	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全学年全教科においてハイブリッドによる授業を展開し、学習指導要領の内容を概ね指導できたが、理解の定着に関しては検証が不十分である。(0201-01) ● 教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の充実を図ることができ、英語力の向上が見られた。(0201-02) ● Secondary Program Division および IB Programs Division との英語科研修会（年間 3 回）、勉強会（年間 2 回）を実施した。(0201-04) ● SH の個別教材を充実させ、サポート体制を整備してきたが、担当教諭の充足に課題がある。(0202-01) ● BSH の時間の活用に関しては、日本語と英語による指導の比率も系統的に且つ計画的に実施することができた。(0202-02) ● コロナ禍という事情より、授業点検の実施、各教科部会主体の授業研究は国語科と算数科中心に 6 回の実施となったが、K-12 学内研修会では、音楽科を除く 8 教科 23 授業を公開した。(0203-01) ● EP クラスの授業研究（3 年生以上の教科指導）を教師相互に学び合う機会を頻繁に行い、授業力向上に繋がられた。(0203-01) ● 各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導体制は構築されている。宿泊行事に関しては、コロナ禍にあって実施が見送られた。(0203-03) 	<p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ハイブリッドによる授業を展開しつつ、オンラインで授業に参加している児童の理解度を検証しつつ、進めていく。(0201-01) ● 教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の充実を図り、Bilingual プログラムの推進を行う。(0201-02) ● Secondary Program Division および IB Programs Division との英語科研修会を充実させていく。(0201-04) ● SH の個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。(0202-01) ● BSH の時間の運用、活用に関しては、これまでの経験を生かし、より一層の充実を図る。(0202-02) ● 教科部会を中心に授業研究を推進し、若手教員を育てる上での induction Program を作成し実践する。(0203-01) ● EP クラスの授業研究（3 年生以上の教科指導）を実施し、授業力向上を今後も継続的に図る。(0203-01) ● 各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りを行う。今後も継続的に宿泊行事等にも外国籍教員の積極的な参加を促し、チームで指導に当たる体制を作る。(0203-03)
<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 教務委員会および教科会において、新学習指導要領の再確認をし、Secondary Program Division の教育課程を再構築する。(0201-01) ● 児童生徒への適切な学習サポートと環境を、アカデミックサポートセンターの協力の基に、児童生徒へ提供する。(0202-02) ● 安心安全で安定したオンライン授業のために、学校と家庭の環境点検を定期的に行う。(0203-01) ● 教員のオンライン授業を効率・効果的に展開するために、ICT スキル研修などを定期的の実施する。(0203-02,03) ● 生徒の主体性を涵養するために、教員の研究授業・研修会を企画立案し授業改善を進める。(0203-02) 	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 教務委員会および教科会において、新学習指導要領の再確認し Secondary Program Division の教育課程を構築することができた。(0201-01) ● 児童生徒への適切な学習サポートと環境（6～8 年の SH 等）を、アカデミックサポートセンターと協力しながら提供することができた。(0202-02) ● オンライン授業のための環境点検が十分できた。(0203-01) ● 教員のオンライン授業を効率・効果的に展開するために、ICT スキル研修を実施したが、まだ十分とはいえない。(0203-02,03) ● 生徒の主体性を涵養するために各教科研究授業を行ったが、研修会を実施するまでには至らなかった。(0203-02) 	<p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各教科、2022 年度から実施される高等学校新学習指導要領に基づき Secondary Program Division の教育課程を再確認する。(0201-01) ● アカデミックサポートセンターと協力しながら、SH・講座のプログラムを検討・実施する。(0202-02) ● 2022 年度、6 年生まで広がる BYOD の活用に向けた、ICT スキル研修を実施し、各教科が共有できるシステムを構築する。(0203-02,03) ● 生徒の主体性を涵養するために、東京私立中学高等学校協会や NITS の研修に参加し、研修内容を共有する。(0203-02) 	

<p>規準(0202)：生徒のサポート Standard(0202)：Student support</p> <p>0202-01 学校は、プログラムの実施に関わる人材、自然資源、設備、およびバーチャル環境におけるリソースを提供すること。</p> <p>0202-02 学校は、生徒への適切な学習サポートの必要性を確認し提供すること。</p> <p>0202-03 学校は、生徒と教師の社会的および心身の健全性、感情的、肉体的な幸福を促進すること。</p> <p>0202-04 学校は、生徒がプログラムで成功し、次の段階についての計画を手助けするキャリアガイダンスとサポートを提供すること。</p> <p>0202-05 学校は、プログラムの実施を強化する知恵と専門知識を得るために、より広いコミュニティーとの関係を構築すること。【K-16連携等】</p> <p>規準(0203)：教師のサポート Standard(0203)：Teacher support</p> <p>0203-01 学校は、教師が最新のリソースを使用し、プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること。</p> <p>0203-02 学校は、学校リーダーシップメンバーと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること。</p> <p>0203-03 学校は、プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること。</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The 2 IB Division kyoumushunin (Director of Teaching and Learning and Director of Academic Affairs) develop and implement regular systems to check and update MEXT curricular requirements (Director of Academic Affairs) and IB curricular requirements (Director of Teaching and Learning) with Coordinators, Subject Leaders and teachers. (0201-01,03) IB Programs Division に配置された 2 名の教務主任 (IB 担当 1 名・Director of Teaching and Learning 1 名) が、それぞれ学習指導要領 (IB 担当)、IB カリキュラム変更 (Director of Teaching and Learning) について、最新情報を確認するシステムを構築し、その内容をコーディネーター、教科主任、教科担当と共有する。(0201-01,03) ● The IB Division kyouikubucho (Principal) creates and regularly updates and IB Leadership Team Pedagogical Development Record that compiles past IB and non-IB PD for Leadership Team members. The kyouikubucho both recommends and receives recommendations from Team members on future PD Leadership opportunities. (0201-02) 教育部長は、IB Programs Division に所属する管理職の教員研修記録 (IB 以外の研修を含む) を作成し、定期的に更新していく。教育部長は、リーダーシップの機会をつくるため、他の教員を推薦するとともに、管理職からの推薦も受ける。(0201-02) ● The IB Senior Leadership Team (kyouikubucho, kyoumushunin, gakumushunin, seikatsushunin) annually confer on internal budget distribution to maintain a transparent, equitable and sustainable Division budget which is shared with subject leaders and teachers. (0201-04,05) 管理職 (教育部長、教務主任、学務主任、生活主任) は、公平で持続可能な予算を維持するため、教科主任や教科担当と予算の配分について毎年協議する。(0201-04,05) ● Morning Language Support classes and Study Halls are organized under the direction of the Director of Teaching and Learning to optimize the learning support provided to students. (0202-02) モーニングサポートクラスとスタディーホールは、教務主任 (Director of Teaching and Learning) の指示のもと、生徒に最適な学習支援の場を提供する。(0202-02) ● The Director of Student Affairs and the Director of School Affairs organize, oversee and maintain homeroom systems to provide maximum social, emotional and physical support to students. (0202-03) 生活主任および学務主任は、生徒が社会的・精神的・身体的な面において最大限の支援が得られるよう、ホームルームの体制を整え、監督し、それを維持していく役割を担う。(0202-03) ● Regular periods are provided on the weekly timetable for whole-program and departmental collaborative planning. (0203-03) 時間割の中に、プログラム全体と各教科の協働設計を図るための時間を定期的に設ける。(0203-03) 	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Weekly 1-hour meetings have been timetabled between the Director of Teaching and Learning and the Lead Teacher for Academic Affairs and separately, the DP Coordinator and MYP Coordinator to keep all abreast of any changes or updates in either MEXT or IB curriculum. Both DP and MYP Coordinators meet Subject Leaders in a regular cycle, both together as a group, and separately by departments to communicate any of the above concerns. Teachers are informed in regular monthly MYP and DP meetings, as well as in weekly staff meetings, emails and the IB Daily Briefing. (A) 教務主任 (Director of Teaching and Learning) と教務主任 (IB 担当) は DP コーディネーター、MYP コーディネーターとそれぞれ週 1 回ミーティングを実施しており、遅滞なく学習指導要領や IB カリキュラムの変更・更新内容の確認をしている。また、DP コーディネーターと MYP コーディネーターは、定期的に教科主任とミーティングを行い、DP・MYP のプログラムごとに、さらには教科ごとに、上記の重要事項について情報共有している。それ以外の教員に対しては、毎月行われる MYP・DP の定例ミーティング、毎週開催しているスタッフミーティング、E メール、IB デイリーブリーフィングで通知している。(A) ● The Head of IB Programs has created and maintains a record of Professional Development for the IB Leadership Team members. He recommends new opportunities from time to time, and also receives and considers requests from members. (C) 教育部長 (IB 担当) は、IB 管理職のための教員研修 (Professional Development) の記録を作成・管理している。また、これに基づき自ら新しい研修の機会を適宜提案するとともに、他の管理職からの要望も受け入れながら教員研修を検討している。(C) ● This past year, the IB Head and Lead Teacher for School Affairs conferred upon and proposed a new budget that stresses both equity between departments and sustainability into the future. (B) 教育部長 (IB 担当) と学務主任 (IB 担当) は、予算編成において各教科間の公平性と将来に向けた持続可能な予算を実現できるよう協議した。(B) ● The Director of Teaching and Learning has reorganized both Morning Language Support classes and teachers under his purview. He has submitted a proposal to the Senior Leadership Team to reorganize the Japanese language Study Hall to better support both teachers and learners. (B) 教務主任 (Director of Teaching and Learning) は、管轄するモーニングランゲージサポートクラス (日英両言語) の実施方法と担当教員を再編成した。また、教員と児童生徒の双方をよりよくサポートするため、日本語スタディーホールの再編成案を管理職に提出した。(B) ● The Lead Teachers for School Affairs and for Student Affairs have created, maintained and overseen a new team-based homeroom teacher system to better respond to and deliver support to students and parents on social, emotional and physical issues. (C+) 学務主任 (IB 担当) と生活主任 (IB 担当) は、生徒と保護者の社会的、精神的、身体的な問題によりよく対応し、サポートを提供するために、チームで取組む新しい担任システムを作り、その体制を維持、監督している。(C+) ● Two weeks (50%) of the monthly cycle of timetabled meetings are devoted to departmental and whole program collaborative planning. (B+) 毎月開催する定例会議のうち、2 週間 (50%) は教科およびプログラム全体における内容に充てている。(B+) 	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Continue listening to the opinions of all shareholders on the effectiveness of the current system and any suggestions for improvements. The IB has changed this system numerous times in the past based on such opinions, and will remain continually open to doing so in the future. (0201-01,03) 現行の制度の有効性や改善点など、関係者間で情報を共有し、必要に応じて適宜変更を行なう。過去にさまざまな制度を改善してきた経緯があり、今後も継続的に改善する方向で検討していく。(0201-01,03) ● The Head of IB Programs needs to more proactively search for a greater variety of such opportunities, as well as construct a multi-year development plan. Allocating and placing teachers' individual professional development budgets under the control of teachers needs to be researched and implemented. (0201-02) 教育部長 (IB 担当) は、より積極的に教員研修の機会を探り、複数年にわたる開発計画を立て、教員個人研究費 (Professional Development) の予算編成の可能性を模索する。(0201-02) ● While more time and collaboration went into this year's (2022) IB budget than in any other year before, greater collaboration among more shareholders needs to be ensured, as well as more planning time. (0201-04,05) 今年度 (2022 年度) の IB 予算編成では、過去のどの年よりも多くの時間を費やし協力体制で臨んだ。次年度はより多くの関係者と事前に話し合い、時間をかけて計画を立てる。(0201-04,05) ● Both Morning Support classes as well as Study Halls will require continual observation and change to ensure they are fit for purpose for the IB Division's changing clientele. The Director of Teaching and Learning will continue to monitor the situation through first-hand observations as well as in regular meetings with key staff, including the MYP Coordinator, EAL Coordinator and Language B Subject Leader. (0202-02) モーニングサポートクラスおよびスタディーホールは、変化していく IB Programs Division の生徒層に対応できるよう、継続的に観察し、必要に応じて見直す。教務主任 (Director of Teaching and Learning) は、MYP コーディネーター、EAL コーディネーター、Language B の教科主任など、主となる教員との定期的なミーティングや現場の観察等を通して、状況を確認していく。(0202-02) ● Two new, multi-grade level homeroom leaders will be added to this system in 2022. Job descriptions are currently being written by the Senior Leadership Team and will be in place for April 2022. Their addition will be crucial in decentralizing homeroom decision-making and action, by providing homeroom teams with more accessible support, while also alleviating some of the burden from the Lead Teachers for Student and School Affairs. (0202-03) 2022 年度から配置する学年主任の業務内容について管理職で精査する。学年主任は、担任をより身近でサポートすることになるため、担任業務の分散、学務主任 (IB 担当)、生活主任 (IB 担当) の負担軽減に繋がるよう検討する。(0202-03) ● Continue listening to the opinions of all shareholders on the effectiveness of the current system of the meetings and collaborative planning and any suggestions for improvements. The IB has changed this system numerous times in the past based on such opinions, and will remain continually open to doing so in the future. (0202-03) 現行の会議実施方法や協働計画の有効性や改善点など、関係者間で情報を共有し、必要に応じて適宜変更を行なう。過去にさまざまな運用を改善してきた経緯があり、今後も継続的に改善する方向で検討していく。(0202-03)
---	--	---	--

<p>環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources</p>	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● EdTech の実践を K-12 全体に広めていくために、インフラ環境整備、授業における ICT 利活用を推進させるための研修、5 年生以下の BYOD 導入等を EdTech 推進委員会で検討し、教員へのサポート体制を構築する。(0201-01,0203-02,03) ● 6 年生以上対象の ES は、放課後の学びに合った環境と児童生徒個々に適した学習サポートを提供することを中心に検討し、施設設備の配慮と担当者の人選を行い、システムの構築を図る。(0202-01) ● 国際交流プログラムは、今後もコロナ禍の影響を受け、派遣も受入も実施できない場合もあるため、ラウンドスクエア加盟校を中心としたオンライン交流を、新規のプログラムとして年間を通してどの学年に対しても計画し、新たな国際教育のあり方を検討する。(0202-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● EdTech 推進委員会において、BYOD を始める学年を 6 年生に変更することを決め、インフラ環境整備として該当する校舎内には無線 LAN を設置した。授業における ICT 利活用支援としては、新任教員向けのサポート体制を構築し実施した。(0201-01,0203-02,03) ● 6～8 年生対象の SH の運用を開始した。放課後の学びに適した施設としてラーニング・コモンズを設置し、SH 教員と学生メンターによる個別最適な学びの場を構築した。(0202-01) ● コロナ禍の影響を直接的に受け、全ての派遣・受入が中止を余儀なくされた国際交流プログラムは、台湾・稲江高校や時差がほとんど無いオーストラリアのラウンドスクエア加盟校等とオンラインによるセッションを企画・運営した。(0202-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● BYOD 導入 2 年目に入り対象学年も 6-10 年生と広がることで、更に多くの教科で ICT を十分に利活用した授業が実施できるよう、教員・子ども達への支援方法について学園教学部と連携を図り検討する。(0201-01,0202-02,0203-01) ● 2022 年度に 9 年生以上の SH を開始することで、ES は K-12 全学年において事業を展開したこととなる。既存事業は内容をさらに充実させ、新規事業については安全で安定したプログラムの提供を図る。(0202-02) ● 海外交流校との派遣型および受入型の国際交流プログラムにおいて、既存プログラムと新規プログラムの運営を安全に提供することを心掛け、一年を通して定期的に見直し K-12 全体の実施計画を検討する。0203-02)
	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新学習指導要領に基づき、玉川学園の教育課程における評価の仕方を K-12 教科会で定期的に確認する。(0201-01) ● アカデミックサポートセンターと協力しながら、学習サポートがスムーズにできるようなシステム作りを行う。(0202-02) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新学習指導要領に基づき、玉川学園の教育課程における評価の仕方を K-12 教科会で確認を行った。(0201-01) ● アカデミックサポートセンターと協力しながら、SH がスムーズにできるよう検討を続けた。(0202-02) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 教科会において、新学習指導要領に基づいた教育課程の観点別評価方法について再検討する。(0201-01) ● SH や講座のありかたについてアカデミックサポートセンターと協力しながら検討する。(0202-02)
	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CHaT Net を有効に活用すると共に、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築する。(0202-05,0203-03) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築し、運用している。(0202-05,0203-03) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築・運用し、充実を図ることを継続していく。(0202-05,0203-03)
	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと協力しながら、安心した体制と環境を提供する。(0202-03) ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心した職場環境と勤務体制を創る。(0203-03) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと協力しながら、安心した体制と環境を提供できている。(0202-03) ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心した職場環境と勤務体制が継続できている。(0203-03) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと協力しながら、安心した体制と環境の提供を継続する。(0202-03) ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心した職場環境と勤務体制の提供を継続する。(0203-03)
	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人材確保においては、収支改善に向けた人件費の適正化が課題である。K-12 部門の人件費枠を策定し中・長期の採用計画を立案していく。(0202-01) ● 新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、さらに教職員の様々な事情に応じた柔軟な働き方を検討し、健全な職場環境の整備に取り組む。(0202-03,0203-03) ● 「新しい働き方」の下で時間や場所を制限される中、いかに研修を実施しその効果を測定するかが課題となる。(0203-02) 	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人件費適正化の目標値としている人件費比率 50%～55% に対し、2021 年度は 55%前後となる見込である。また、採用数の抑制も限界にきており厳しい状況が続いている。 ● 2021 年 4 月 1 日付で「学校法人玉川学園教職員の在宅勤務に関する規程」を制定した。現行、在宅勤務日数の上限は週 1 日としているが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間は上限にかかわらず在宅勤務できることとした。 ● コロナ禍において集合研修が制限される中、オンデマンド形式にて「ハラスメント防止研修」「健康セミナー（新型コロナウイルス感染症 ～今後の予測と感染症の歴史～）」を実施した。2022 年 3 月に予定している「新採用教職員研修」はオンデマンド・対面のハイブリッドを検討している。 	<p>【管理運営部門（人事部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人材確保においては、引き続き、収支改善に向けた人件費の適正化が課題である。人件費枠の策定の他、各ディビジョンの教員構成について関係部署と検討したい。(0201-05,0202-01) ● 在宅勤務制度の実施状況を検証する。引き続き、教職員の柔軟な働き方を検討し、健全な職場環境の整備に取り組む。(0202-03,0203-03) ● 引き続きコロナ禍での研修実施が予測されるため、オンデマンド研修のメリット・デメリットを検証し、Tamagawa Vision100 (2029) の達成に向けて準備を進めている研修計画に生かす。(0203-02)
	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育活動に必要な K-12 の運営に係る予算は申請に基づき手当てされている。一方で、令和 2 年度および令和 3 年度の在籍者数についても引き続き厳しい状況が見込まれ、収支改善に向けた取り組みが課題である。(0201-05) ● 引き続き令和 2 年度決算の収支分析を学園部長会に報告する他、2020 年度に実施できなかった収支改善に向けた各学校種の教職員構成について、関係部署との調整を行いたい。(0201-05) 	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和 2 年度決算における学校種別ごとの収支分析を行い、学園部長会において報告した。定員の減少変更もあり、入学定員・収容定員超過率は改善が見受けられるが、いずれも 1 倍を切っており、引き続き厳しい収支状況となっている。今後も生徒の確保や段階的な人件費比率の引き下げ等の収支改善に向けた取り組みが課題であることを共有した。 ● ディビジョンの構成変更に伴う予算措置については、執行状況を踏まえ当面は必要に応じて組み換え等の調整することとしたが、教職員構成については十分な調整ができなかった。 	<p>【管理運営部門（経理部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和 3 年度も収容定員超過率の状況等から厳しい収支状況となることが予測されるため、引き続き学校種別毎の収支改善に向けた取り組みが課題である。(0201-05) ● 引き続き令和 3 年度決算に係る収支分析結果を学園部長会へ報告する。また、収支改善に向けた学校種別毎の教職員構成について、関係部署との調整を行う。(0201-05)

<p>環境 (02) : 必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供 Environment (02) : Providing essential structures, systems and resources</p>	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 包括連携協定を締結している 7 つの自治体と定期的に地域社会が抱えている課題について情報共有を行い、本学園で課題解決に寄与できる案件を選定する。児童・生徒が地域社会において学習する機会を提供し、教育連携を図る。(0201-03) ● Campus Master Plan に基づき、自然資源を有効活用した施設・設備の提供を図る。(0202-01) ● 引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修中長期計画の立案を行う。(Campus Master Plan) (0202-01) ● SDGs や Society5.0 を視野に入れた Campus Master Plan の立案。(0202-01) 	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 包括連携協定を締結している 7 つの自治体とも、コロナ禍での活動を模索している状況という情報収集はできたが、教育連携を図るまでの活動は各自自治体とも見合わせていた。 ● 学内伐採材を教材や建材として有効利用するために北斗館に木材低温乾燥装置を導入した。 ● 11 月に施設中長期計画(新築・改修・解体)の実施予算の提出をした。 ● 本年度竣工した Human Brain Science Hall は SDGs 及び感染症対策を視野に入れた建物となっている。 	<p>【管理運営部門（総務部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各自自治体ともアフターコロナでの連携活動を模索し始めており、締結している 7 つの自治体の情報収集を積極的に行い、児童・生徒が地域社会において学習できる機会を提供する。(0201-03) ● Campus Master Plan に基づき、自然資源を有効活用した施設・設備の提供を図る。(0202-01) ● 引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修中長期計画の立案を行う。(Campus Master Plan) (0202-01) ● SDGs や Society5.0 を視野に入れた Campus Master Plan の立案。(0202-01)
--	---	---	--

評価規準	2021 年度の課題・重点施策	2021 年度自己評価	
		2021 年度の課題・重点施策に対する達成状況	2022 年度の課題と改善方法（2022 年度の課題・重点施策）
<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p> <p>規準(0301) : 方針の実践を通じた文化 Standard(0301) : Culture through policy implementation</p> <p>0301-01 学校は、可能な限り多様な生徒が教育にアクセスできるようにすること。</p> <p>0301-02 学校は、すべての生徒が最大の可能性を發揮することをサポートする文化を創造するために、多様性を受け入れるインクルーシブな方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-03 学校は、学問の清廉性を保つために必要な学問的誠実性についての方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-04 学校は、複数の言語でさまざまな方法のコミュニケーションを行い、多様な文化の理解を育成するのに役立つ言語方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-05 学校は、生涯学習と継続的な成長を目指す学校文化の創造につながる評価方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。</p> <p>0301-06 学校は、教育理念および IB が定めた方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行い、それらが一貫性をもち、全人教育および IB の理念を反映したものかを確認すること。</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外在住の受験希望者に対するガイダンスや編入学試験などを極力オンラインで実施できるようにし、少しでも海外から受験しやすい状況を作る。また、Can do list を作成し、民間試験の活用を進めることで海外からの受験をやすくする。(0301-01) ● 生徒・保護者の多様化や、生徒の国際性を高めるために、各ディビジョン、K-12 全体でバイリンガルの環境作りを目指す。教員間で周知すべき文書などの英訳に取り組む。(0301-04) ● 部長連絡会において、評価に関する各ディビジョンの情報を共有し、K-12 全体の評価方針を検討する。(0301-05) <p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校説明会や個別相談のオンライン開催を今後も併用し、より参加しやすい機会を設ける。(0301-01) ● 国際性を高め、多様性への理解を深めるため、園内環境の英語表記や教職員への周知文書等の英訳に取り組む。(0301-04) <p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対面式に限定せず、オンラインによる志願者対象に個別入試相談を実施し、日本国内および海外在留者との面談の機会を増やし、志願者増に繋げる。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプの継続実施を行う。またそれ以外の宿泊を伴う行事（スキーキャンプ、久志農場）を検討する。(0301-01) ● 5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムを実施し、低学年における国際理解教育を推進する。(0301-04) ● 1~5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化を図り、志願者増へと繋げる。(0301-05) <p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 状況に応じた授業展開のために、オンライン授業での環境を整備し充実させる。(0301-01) ● 各教科において教育の 12 信条を反映した授業展開を考察し、教材等の再確認と再構築を進める。(0301-05) ● コロナ禍でも可能な国際教育プログラムの企画を立案し実施する。(0301-04) ● 多様な大学進路進学に対応する進路指導を、更に充実した企画を立案し実施する。(0301-05) ● 中学高校入学選抜試験に向け、オンラインによる学校紹介と志願者対象の個別入試相談を充実させ、志願者増に繋げる。(0301-06) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Primary（幼稚部）、Primary（1-5）、及び、IB Programs Division のローリング入試において、海外在住者の On-line 入試を実施した。(Primary6 件、IB7 件) Can do list の作成、及び、民間試験の活用については不十分であった。(0301-01) ● 教職員連絡等（CHaT Net、Notes 等）の日英併記を進め、K-12 全体でバイリンガルの環境作りを努めた。各ディビジョンでバイリンガル環境作りを努めた。(0301-04) ● 評価に関しては各ディビジョンで進めており、K-12 全体の評価方針の共有の検討は不十分であった。(0301-05) <p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2 回の説明会をオンラインで開催し参加者は増加傾向にある。また海外在住の入園希望者に対しオンラインでの相談会、入試を実施した。(0301-01) ● 教室名の英語表記ステッカーを追加した。(0301-04) <p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対面式に限定せず、オンラインによる志願者対象に個別入試相談を実施し、日本国内および海外在留者との面談の機会を増やし、今年度 3 名のオンライン受験を実施した。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプはコロナ禍で実施を見送る。また、それ以外の宿泊を伴う行事（スキーキャンプ、久志農場）の検討は中断している。(0301-01) ● 5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムも 2 年続けて見送ることになった。(0301-04) ● 1~5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の学習サポートの強化（教材の準備等含め）を図ることができた。(0301-05) <p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン授業に必要な環境を整えることができ、さらに 2020 年度から 6 年生に拡げる環境の整備が整った。(0301-01) ● 各教科において教育の 12 信条を反映した授業展開を考察し、カリキュラムや教材等の確認を進めることができた。(0301-05) ● オンラインでの交流などコロナ禍でも可能な国際教育プログラムをアカデミックサポートセンターと協力して実施することができた。(0301-04) ● 多様な大学進路進学に対応できる進路指導を実施することができた。(0301-05) ● 中学高校入学選抜試験に向け、オンライン学校説明会の数を増やし、対面で行う学校説明会に参加できるように心がけた結果、学校説明会の参加者増加に繋がった。(0301-06) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外在住者のオンライン入試、及び、オンラインによるガイダンス実施等を積極的に取り入れ、より玉川学園を受験しやすい環境作りを行う。(0301-01) ● 教員間の連絡文章等、すべて日本語英語を併記し、バイリンガル環境の充実を図る。またバイリンガルデーの実施等、園児児童生徒のバイリンガル環境の拡充を図る。(0301-04) ● 教務委員会を中心とし、K-12 全体の評価方針を継続検討する。IB の評価方法を参考にしながら、玉川学園の園児児童生徒のよりよい成長に繋がる評価方法を探る。(0301-05) <p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入試広報活動におけるオンラインの活用を継続する。またオンライン環境の設定・維持のため、年度当初には各家庭との通信テストを実施する。(0301-01) ● 日課、時間割などの英語表記版を作成する。(0301-04) <p>【教育部長（K-5 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対面式に限定せず、オンラインによる志願者対象に個別入試相談を実施し、日本国内および海外在留者との面談の機会を増やし、志願者増に繋げる。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプの再開、またそれ以外の宿泊を伴う行事（スキーキャンプ、久志農場）を検討する。(0301-01) ● 5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムを実現させ、低学年における国際理解教育を推進する。(0301-04) ● 1~5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05) <p>【教育部長（6-12 担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 6 年生から導入する BYOD によって、個別最適な学びの授業ができる各教科のカリキュラムを構築する。(0301-02) ● 各教科において主体的な学習姿勢を育成するためのカリキュラムを検討し実施する。(0301-05) ● コロナ禍およびアフターコロナでも、国際教育の中にオンラインでの交流を数多く実施する。(0301-04) ● 大学進路進学に対応する進路指導に於いて、データ収集と分析に注力し進路指導に反映させる。(0301-05) ● 教員に教育の 12 信条の研修を実施する。(0301-06) ● 高校入学選抜試験に向け、オンラインによる学校紹介と志願者対象の個別入試相談を充実させ、志願者増に繋げる。(0301-06)

<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The IB gakumushunin insures that annual entrance testing of external applicants is fair and equitable, and continues to expand diversity of students in the Programs. (0301-01) IBの学務主任は、外部志願者の入学試験が公正かつ公平に実施され、生徒の多様性が広がるよう検討していく。(0301-01) ● All major program-wide existing policies (Language, Academic Honesty and Assessment) continue to be annually reviewed and amended by IB leaders and teachers prior to the publishing of the annual IB Guidebook in March (0301-03,04,05) IBプログラムの主要方針(言語、学問的誠実性、アセスメント)は、毎年3月に発行されるIBプログラムガイドブックの製作に先立ち、IB管理職をはじめ担当教員が毎年見直しを図り、改訂する。(0301-03,04,05) ● Under the Direction of the IB kyouikubucho and kyomushunin, the IB Program adds a “Zenjin Policy” to its guidebook, which details key ways in which IB teachers and students can continually support both IB and Zenjin philosophies concurrently. (0301-06) 教育部長および教務主任の指示のもと、IBプログラムガイドブックに「全人教育」の項目を追記し、IBの教員・生徒が、共鳴しあうIBおよび全人教育の哲学を両方学ぶことができるようにする。(0301-06) 	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● The Lead Teacher for School Affairs is responsible for the fair and equitable policies and creation/grading of both rolling and regular entrance testing for external, and sometimes internal, candidates. Feedback meetings with Subject Leaders have taken place and data has been shared and analyzed to instruct future practice. (B) 学務主任 (IB 担当) は、一般入試や外部からの志願者、時には内部転籍志願者を対象としたローリング入試を公平かつ公正な方針のもとで行い、試験問題の作成・採点を実施運用する責任者である。教科主任との振り返りミーティングも行ない、今後の実践に役立てるため、データが共有・分析された。(B) ● The Director of Teaching and Learning is currently reviewing major Programs-wide policies in order to recommend changes and updates prior to their adoption from April 2022. He will inform and seek feedback from the wider staff within this process to insure widespread buy-in as well as information dissemination. (A) 教務主任 (Director of Teaching and Learning) は、2022年4月に向けてIBプログラム全体の主要な方針を見直し、変更と更新を提案できるよう検討した。教務主任 (Director of Teaching and Learning) はこの過程の中で、より多くの教員に情報を提供し、フィードバックを求めることで、広く賛同を得るとともに情報の普及に努めた。(A) ● A Zenjin Policy is under consideration for addition to the next IB Guidebook by the Senior Leadership Team. (D) 管理職は、次回のIBプログラムガイドブックに「全人教育」を追記することを検討中である。(D) 	<p>【教育部長 (IB 担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Data from Feb. 2022 entrance exams will need to be analyzed and the Senior Leadership Team debriefed on any issues faced resulting from the current exam regime. Proposals from Subject Leaders on ways forward will continue to be encouraged and considered. (0301-01) 2022年2月の入試データを分析し、現行の入試体制から生じる課題については、管理職による報告が必要である。今後の進め方に関する教科主任からの提案は、引き続き検討する。(0301-01) ● This will continue to be a regular annual process that will be assigned by the Director of Teaching and Learning to the MYP and DP Coordinators, as well as to Subject Leaders. (0301-03,04,05) IBプログラム全体の主要な方針の見直しは、教務主任 (Director of Teaching and Learning) のもと MYP コーディネーター、DP コーディネーター、教科主任が担当し、毎年定期的に行う。(0301-03,04,05) ● This will need more careful consideration by the IB Senior Leadership Team who will need to identify key personnel to lead and participate in this process. (0301-06) IBの教員と生徒が、IB および全人教育の哲学を両方学ぶことができるよう、IBの管理職はより慎重に検討を重ね、主導する主要教員を決める必要がある。(0301-06)
<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本語能力が劣る帰国生が入学する場合を想定し、入学前サポートとしての日本語指導をオンラインで行う事業を検討する。この事業により受験生の不安を軽減させ生徒募集の拡充に役立てる。(0301-01) ● ESで開講している講座はその全てが全人教育の理念を反映し、子ども達が可能性を發揮できる場として計画し実施する。そのため定期的な振り返りを行い改善する。(0301-06) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 国際教育センターが主体となり ES 日本語講座として事業の計画に入った。今後は各ディビジョンの要請により計画を進めていく。(0301-01) ● ESの講座は常に安全・安心で満足度の高いプログラムを提供しなければならない。そのため、満足度調査による現状把握とES委員会やES連絡協議会の場で、教員や講座講師と振り返りを行った。(0301-06) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達が国際交流や異文化理解について国内にいても興味を持ち活動できるよう、CHaT Net のコンテンツやオンライン交流等の ICT を活用した新規事業を検討する。(0301-01) ● MMRC では生涯学習の推進事業として継続学習センターと連携・協働し、スターレックドームを活用したシニアおよび親子向けの天文学講座を検討する。(0301-05)
<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 急な休校、出校停止に対応出来るようなオンライン環境の点検を、定期的に行うよう各教科に促す。(0301-01) ● K-12 のカリキュラムが新学習指導要領に沿ったものになっているかについて、各教科会で定期的に話し合いを行う。(0301-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎日、欠席者に対して授業をオンラインで配信をしていたので、環境確認は十分行えた。(0301-01) ● K-12 のカリキュラムが新学習指導要領に準ずるものかの確認を各教科会でを行った。(0301-03) 	<p>【教務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2022年度から始まるBYODに向けて、協働的な学びができるよう各教科検討する。(0301-01) ● 継続的に成長しようとする姿勢や生涯学習しようとする姿勢を育むためのカリキュラム作りについて検討する。(0301-05)
<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を検討し、新しい時代に相応しい玉川学園の行事教育を検討する。入学、卒業関連行事を K-12 連携の連携を通して見直しを行う。(0301-02) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を検討し、with コロナの時代でも実施可能な玉川学園の行事教育を模索した。また、入学、卒業関連行事を K-12 の連携を通して見直しを持って実施した。(0301-02) 	<p>【学務委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を検討し、with コロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育を検討する。入学、卒業関連行事を K-12 の連携を通して見直しを行う。(0301-02)
<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 新ディビジョン体制における学校生活で各種規程を実施する中、新しい生活様式を念頭に置いて各種規程の見直しを進める。(0301-02) ● 6～12年生のクラブ活動において、生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感ある活動に発展させるクラブ活動運営指針を創り上げる。(0301-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● K-12 新ディビジョン体制における学校生活の各種規程の見直しを進める事ができた。(0301-02) ● 6～12年生のクラブ活動において、生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感ある活動に発展させるクラブ活動運営指針を創り上げるまでには至らなかった。(0301-01) 	<p>【生活委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各ディビジョン体制の中で各種規程の確認を継続し、新しい生活様式を鑑みながら服装規定を継続検討する。(0301-02) ● クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針を創り上げる。(0301-01)
<p>文化 (03) : 肯定的な学校文化の創造 Culture (03) : Creating positive school cultures</p>	<p>【管理運営部門 (教育情報・企画部)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育理念および方針は Web サイトに加え、「玉川大学・玉川学園総合パンフレット」(いずれも日英)を通じて周知している。さらに理念・方針の実践例を Web 内のニュースおよび教育レポート等で紹介し、単なる文言での周知に止めず、具体的な内容を添えることで理解・浸透の一助としている。2021年度は教育理念・方針とニュースレポート内容との関連性を、より明確に示すことで更なる理解度の促進を図っていく。(0301-06) 	<p>【管理運営部門 (教育情報・企画部)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育理念および方針は Web サイトに加え、「玉川大学・玉川学園総合パンフレット」(いずれも日英)を通じて周知している。特に Web サイトは総合サイトトップを改修し、本学の「使命」「教育理念」「新しい教育」「教育内容」と、一連のストーリーを持たせた構成にし、教育活動の一貫性がより分かりやすくなるよう改修を行った。加えてニュースとして各部の教育実践を提示することで理解が促されたと考える。(0301-06) 	<p>【管理運営部門 (教育情報・企画部)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前述のとおり、総合サイトでは理念・方針の理解を促進することができたが、次年度以降は K-12 サイトでの周知ならびに理解の促進のための方策が必要と考える。現在 K-12 サイトトップの改修を進めているが、加えてトップの配下ページもリニューアルし、Web 訪問者の理解度促進につなげる。さらにニュースやレポートの掲載も積極的に行い、理念や方針に基づいた玉川教育の実践状況を伝えていきたい。(0301-06)

評価規準	2021年度の課題・重点施策	2021年度自己評価		
		2021年度の課題・重点施策に対する達成状況	2022年度の課題と改善方法（2022年度の課題・重点施策）	
<p>学習 (04) : 効果的な教育の保証 Learning (04) : Ensuring effective education</p> <p>規準(0401) : 一貫したカリキュラムのデザイン Standard(0401) : Designing a coherent curriculum</p> <p>0401-01 学校は、プログラムが実施される全学年にわたり、学習と指導を体系化する一貫したカリキュラムを計画し、実施すること。</p> <p>0401-02 教師は、協働して学校のプログラムをデザイン、計画、実施すること。</p> <p>0401-03 学校は、学校コミュニティーを明確に参加させるような方法でカリキュラムを開発し、定期的に見直し、共有すること。【K-16連携を意識】</p>	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●IBの「指導と学習の方法」を参考にしながら「主体的、対話的で深い学び」を各教科でどのように実践するかについて、K-12全体で研修し、教科指導に生かす。(0401-01) ●思考力育成委員会が中心になりながら、全ての教科指導において「学びの技」の育成とその活用を行う。(0402-01,0403-02) ●学習指導要領、教育課程に基づいて実施した教科指導について、K-12全体の評価方針に基づいた教科ごとの評価のあり方を検討する。(0404-02) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教務委員会主体のK-12研修会（Primary 授業研究）を行い、K-12教科部会で振り返りを行った。EPクラスでは、IB Programs Division との連携を意識した教科指導を実施した。(0401-01) ●「学びの技」に関しては、日常の教育活動に浸透してきており、特設の時間、及び、各教科の中で確実に実施が行われてきた。(0402-01,0403-02) ●K-12教科部会の中で、新学習指導要領、及び、教育課程に基づいた教科指導において、一貫性のある評価について継続して検討している。(0404-02) 	<p>【学園教学部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JPクラスからSecondary Program Division、EPクラスからIB Programs Division への連携を意識した一貫性のある教科指導を行えるよう、各教科で検討を継続する。(0401-01) ●総合的な学習の時間の中の「学びの技」及び、各教科の中における探究学習を意識した授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。(0402-01,0403-02) ●K-12教科部会に加え、EP-IBの教科指導者の連携を深め、K-12全体の評価方針に基づいた各教科の評価のあり方を継続検討していく。(0404-02) 	
	<p>規準(0402) : 生涯学習者としての生徒 Standard(0402) : Students as lifelong learners</p> <p>0402-01 生徒は、活発に思考、研究し、コミュニケーションをとり、社会的、および自己管理のスキルを発達させること。</p> <p>0402-02 生徒は、「教育の12信条」「IBの学習者像」の人物像に沿った継続的な発展を実証し、振り返りを行うこと。</p> <p>0402-03 生徒は、健全な人間関係、責任の共有および効果的に協働することの大切さについて理解し、発展させること。</p> <p>0402-04 生徒は、情報、論理、および倫理に基づいて判断を行う能力を向上させること。</p> <p>0402-05 生徒は、より広いコミュニティーと社会全般に肯定的な変化をもたらすのに必要な柔軟性、忍耐力、および自信を育むこと。</p> <p>0402-06 生徒は、チャレンジに満ちた目標を設定し、独自の探究を突き詰めることで、自身の学習に責任をもって取り組むこと。</p> <p>0402-07 生徒は、個人的な、また文化的なアイデンティティを模索し、発展させる機会を追求すること。</p>	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一貫教育における幼児教育の使命を認識し、主体的な学習者に育つための非認知的能力の理解、開発に努める。(0401-01) ●幼児期の言語能力、思考力の発達に注目しつつ、自他を肯定的に捉え、探究心を育む環境作りを実践する。(0402-01,05,06) ●教員間の情報共有を重視し、よりよい環境設定について考え、話し合い、チームとして協働して教育活動にあたる。(0403-04) ●遊びや生活場面での個々の成長、Bilingual環境における言葉の育ちといった視点から、連続性のある評価方法（ポートフォリオ）について検討する。(0404-02) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●様々な活動場面において、個々の主体性や協働性に注目し、設定した環境と個々の成長とを関連付けながら振り返りを行っている。(0401-01) ●年少、年中期には好奇心やその子らしさを育むための環境設定を行い、年長期においては小学校接続を意識し、チャレンジプログラムを通して多くの体験活動を設定している。(0402-01,05,06) ●毎日短時間の終礼を行い、タイムリーに情報を伝達し、共有できる体制を整えている。(0403-04) ●週毎の活動計画と振り返りの記録「週日案」を活用している。(0404-02) 	<p>【担当部長（幼稚部担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幼児期に伸ばしておきたい「非認知的能力」について、園内研修および外部講師による研修等で取り上げる。(0401-01) ●MMRCと連携し、幼児期の言語能力や思考力、自己肯定感、探究心を育むための環境の一つとして図書環境を整備する。(0402-01,05,06) ●長時間の会議や打合せを廃し、ドライブ、オンラインでの情報共有を図る。また終業時に行う短時間のデイリーミーティング「終礼」を継続する。(0403-04) ●ポートフォリオに関する研修を年1回計画する。(0404-02)
		<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●K-12の連携の中で、5年生までの一貫したELFカリキュラムを構築する。またJPクラスの英語力の到達度を測定することによって、カリキュラム改善を行う。(0401-01) ●EPクラス5年生にCambridge検定を実施し、到達度を測定することで、英語カリキュラムの改善に繋げる。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、日々の学習活動に取り組ませる。(0402-02) ●3～5年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築し、プログラミング的思考力育成、探究的な学習の推進を図る。(0403-02) ●オンライン学習における評価方法を確立する。(0404-01,03) 	<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●K-12の連携の中で、5年生までの一貫したELFカリキュラムの構築はできた。またJPクラスの英語力の5年生時の到達度を測定のためケンブリッジ英検ヤングラーナーズPreA1Startersを実施した。(0401-01) ●EPクラスは、TOEFL Primary step2（3年生）とJunior（5年生）に検定を実施した。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、具体的な目標を立てて取り組んだ。(0402-02) ●3～5年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築できたが、プログラミング的思考力育成目的のキューベットの活動（1、2年生対象）はほぼ実施できたが、コロナ拡大の影響により1年生1クラスのみやむなく活動途中で中止せざるをえなかった。(0403-02) ●オンライン学習における評価方法は模索中である。(0404-01,03) 	<p>【教育部長（K-5担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●K-12の連携の中で、5年生までの一貫したELFカリキュラムの構築を目指し、継続的に取り組む。また、継続的にJPクラスの英語力の到達度を測定することによって、カリキュラム改善を図る。(0401-01) ●EPクラスは、TOEFL Primary step2（3年生）とJunior（5年生）に検定を継続し、英語カリキュラムの改善に繋げる。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、日々の学習活動に取り組ませる。(0402-02) ●3～5年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築し、プログラミング的思考力の育成、探究的な学習の推進を図ることを継続していく。(0403-02) ●オンライン学習における評価方法を確立する。(0404-01,03)
	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Secondary Program Divisionの中で、各教科「主体的・対話的な深い学び」のカリキュラムと教材の確認と実践を検証する。(0401-01) ●ICT活用の授業展開をIBの指導方法から学ぶ研修を定期的に行う。(0401-01,02) ●SDGsなど長期的で教科横断的な教材とカリキュラムの検討をし、学び続ける学習者の育成を進める。(0402-01) ●各教科で「学びの技」「SSH」の指導方法を、「総合的な学習・探究の時間」の課題研究や探究的な取り組みを共有し実践する。(0403-01,03) ●学習指導要領、教育課程に基づいた教科指導について、教科ごとの評価方針に基づいた評価のあり方を検討する。(0404-02) 	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「主体的・対話的な深い学び」のカリキュラムについて、各教科、次年度につなげる教材の検討を行った。(0401-01) ●ICT活用の授業展開の研修を定期的には行うことができなかった。(0401-01,02) ●学び続ける学習者の育成を進めるため、SDGsなど長期的で教科横断的な教材とカリキュラムの検討を行った。(0402-01) ●各教科で「学びの技」「SSH」の指導方法を、「総合的な学習・探究の時間」の課題研究や探究的な取り組みの共有が始まった。(0403-01,03) ●学習指導要領、教育課程に基づいた教科指導について、教科ごとの評価方針に基づいた評価のあり方を検討することができた。(0404-02) 	<p>【教育部長（6-12担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際教育、キャリア教育について、教科横断で行えるよう検討する。(0401-01) ●BYODにおけるICTの活用研修を定期的に行う。(0401-01,02) ●企業との連携でSDGsを教科横断的な学ぶカリキュラムを企画し実践することにより、常に思考し、学び続ける学習者を育成する。(0402-01) ●「学びの技」「SSH」での探究方法を参考にして、全自由研究にあった探究方法をそれぞれの自由研究で検討する。(0403-01,03) ●2022年度より実施される高等学校学習指導要領に基づいた教育課程における評価のあり方について検討する。(0404-02) 	

<p>規準(0403)：指導のアプローチ Standard(0403)：Approaches to teaching</p> <p>0403-01 教師は、生徒の自然な好奇心を培うために、探究・行動・振り返りを用いること。</p> <p>0403-02 教師は、生徒の思考力を高めるために概念理解の学習に重点を置くこと。</p> <p>0403-03 教師は、カリキュラムの関連性（教科横断、学年縦断）をもたせるために、地域およびグローバルな文脈を用いること。</p> <p>0403-04 教師は、肯定感があり、躍動感のある学習環境を創造するために、効果的な人間関係の構築と意義のある協働を促進すること。</p> <p>0403-05 教師は、生徒一人ひとりがやりがいのある独自の学習目標を立て、それを追求し達成できるように学習への障壁を取り除くこと。</p> <p>規準(0404)：評価方法 Standard(0404)：Approaches to assessment</p> <p>0404-01 生徒と教師は、学習、指導、および評価を向上させるためにフィードバックを行うこと。</p> <p>0404-02 学校は、カリキュラムおよび規定された学習結果と目標に見合うさまざまな評価方法を用いること。</p> <p>0404-03 学校は、公正でインクルーシブに、かつ一貫性と透明性をもって評価を実施すること。</p> <p>0404-04 生徒は、学習したことを定着させる機会として評価を利用すること。</p>	<p>【教育部長（IB担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IB kyoumushunin continually focus and report on the transitional curricular aspect of BLES to MYP to DP in both their meeting agendas with Coordinators and Subject Leaders. (0401-01) 教務主任はコーディネーター・教科主任との会議において、BLESからMYPそしてDPへの移行期におけるカリキュラムに継続的に焦点を当て、状況を報告する。(0401-01) ● IB Core class occurs regularly across all grades and focuses on IB ATL's and study skills. (0402-01) 全学年を横断して行われるIB Coreの授業において、学習への姿勢(ATL)や学習スキルが身につくよう焦点を当てる。(0402-01) ● IB reihai's are led by all teachers and seek to expand students' abilities to make informed, reasoned and ethical judgements. (0402-04) IBにおける礼拝は全教員が指導に当たり、生徒が情報に基づいた、理性的で倫理的な判断ができる能力を伸ばすことを目指す。(0402-04) ● New IB teacher annual goal-setting and evaluations are finalized and are based on the design cycle of classroom inquiry, action and reflection and have the goal of developing the natural curiosity of students and teachers. (0403-01) IB教員の新たな年間目標設定と評価は、授業における探究、行動、反省というサイクルに基づき、生徒と教員の自然な好奇心を培うことを目標とする。(0403-01) ● Kyoukashunin (Subject Leader) job descriptions to be updated to take a more proactive role in assessment management, collaboration, design and moderation. (0404-03) 教科主任の職務内容を見直し、アセスメントの管理運用(連携・作成・評価)の場において、より積極的な役割を担うようにする。(0404-03) 	<p>【教育部長（IB担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Effective vertical integration of the curriculum between the Primary EP, MYP and DP is a continual focus of weekly meetings between the Director of Teaching and Learning, the Lead Teacher for Academic Affairs and the MYP/DP Coordinators. Many special meetings between the Director of Teaching and Learning, the MYP Coordinator, Subject Leaders of Language A & B, the EAL Coordinator and the Curriculum Coordinator of the Primary Division EP have occurred over the year to better understand, troubleshoot and inform shareholders of these concerns and changes. (B+) Primary DivisionのEPクラスとMYP、DPプログラム間におけるカリキュラムの効果的な連携については、教務主任(Director of Teaching and Learning)、教務主任(IB担当)、MYPおよびDPコーディネーターが毎週行うミーティングで継続的に焦点を当てられた。関連する課題や変更を関係者がよりよく理解し、課題解決し、情報共有するため、教務主任(Director of Teaching and Learning)、MYPコーディネーター、Language AとBの教科主任、EALコーディネーター、Primary DivisionのEPカリキュラムコーディネーターの間で、1年間にわたり多くの特別会議が行われた。(B+) ● The MYP and DP Core lessons continue to focus on unique parts of the IB curriculum and pedagogy, especially ATL's and inquiry-based learning. New curriculum has been written and implemented over the year by the Director of Teaching and Learning and the Lead Teacher for Student Affairs. (A) MYPとDP Coreの授業、特にATLと探求型学習においては、IBのユニークなカリキュラムと教育法に焦点が当てられ行われた。教務主任(Director of Teaching and Learning)と生活主任(IB担当)は、1年をかけて新しいカリキュラムを作成し、実施された。(A) ● Various IB teachers, both Japanese and foreign, have in turn led reihai sessions this year that focus on the moral and ethical dimension of learning. (A) 日本人・外国人を問わず、さまざまなIB教員が学びにおける道徳的・倫理的側面に焦点を当てた礼拝の講話を担当した。(A) ● IB teacher annual professional goal setting and evaluation descriptors are now in place to nurture and enhance the professional growth and development of teachers. (A) IB教員の年間目標設定と評価項目が導入され、教員の成長・育成が促進された。(A) ● The Subject Leader job description has been overhauled and expanded to insure a more powerful and proactive role, further decentralizing decision-making and shared leadership within the Division. (B+) 教科主任がより強力で積極的な役割を担うことができるよう、職務内容を見直し、IB Programs Divisionの中で意思決定とリーダーシップの分散化を図った。(B+) 	<p>【教育部長（IB担当）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● These meetings will continue to be scheduled throughout the year at the request of the Director of Teaching and Learning, based on new information from the current and past cohorts of the Primary Division EP. (0401-01) EPクラスとMYP、DPプログラム間におけるカリキュラムに関する会議は、過去を含むEPクラス児童の最新情報を踏まえ、教務主任(Director of Teaching and Learning)の要請により、年間を通じて継続的に実施する。(0401-01) ● These weekly lessons across grade levels will be taught directly by the Director of Teaching and Learning and the Lead Teacher for Student Affairs. The two will continue to work with the MYP and DP Coordinators in a continued effort to vertically integrate the skills across Programs years. (0402-01) 全学年を横断して毎週行われるIB Coreの授業は、教務主任(Director of Teaching and Learning)および生活主任(IB担当)が直接指導する。また、引き続きMYPとDPのコーディネーターと協力し、年度を超えてスキルの統合を図ることができるよう取り組んでいく。(0402-01) ● More IB teachers as well as outside opportunities will be searched out to provide fresh reihai sessions for students. (0402-04) 外来講師を含め、さらに多くのIB教員が礼拝講話を担当することができるか模索し、新たな礼拝の時間を提供していく。(0402-04) ● These professional growth processes are well underway and time will be continually provided to teachers to participate fully in them. Changes can be proposed from time to time by participants, and these will be debated and considered by the Director of Teaching and Learning. (0403-01) IB教員の成長・育成促進のプロセスは軌道に乗っており、教員に対しては引き続きそのための時間を提供していく。教員からプロセスの改善が提案された場合は、教務主任(Director of Teaching and Learning)が中心となり検討する。(0403-01) ● Increased meeting opportunities between Subject Leaders and IB Coordinators will need to be timetabled and their frequency increased over time. Further opportunities for Subject Leaders to make requests and proposals to the Senior Leadership Team need to be searched out and implemented to insure further decentralized leadership of the Programs. (0404-03) 教科主任とIBコーディネーターとの面談の機会を時間をかけて増やす。また、教科主任が管理職に要望や提案をする機会をさらに増やし、IBプログラムにおけるリーダーシップの分散化をより確かなものにする。(0404-03)
	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2021年度から運用開始する6年生以上対象のSHでは、学習データ等を利活用し、児童生徒個々に対して最適な学びが提供できるよう、各ディビジョンとの連携を図り学習状況の「見える化」を進める。(0401-02) ● 思考力と読解力の育成を目指し、K-12において学齢に合わせた良質な読書活動を促す計画を各ディビジョンと連携し検討する。また、思考力育成委員会が中心となって、昨年度実施した思考力テストの結果を基に新たな思考力育成カリキュラムを検討する。(0403-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 6～8年生対象のSHでは、受講生の教科に関する学習データを共有し、有効に活用することで個別に対応した学習支援を実践することができた。(0401-02) ● 司書教諭が作成したMMRC活動計画書に基づき、良質な読書を推進させる活動を実践した。また、思考力育成委員会では2年間実施した思考力テストの結果について分析・考察を行い、10～12年生対象の自由研究の指導方法と教科での思考力育成の取り組みについて検討した。(0403-02) 	<p>【アカデミックサポートセンター長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自学自習を行うSHの運営では、園児・児童・生徒一人ひとりが自己の課題に沿った目標を設定し、達成へと繋がるよう学習支援体制を検討する。(0401-02) ● 語彙力の向上を目指し、学年ごとに良質な読書活動をさらに推進させ、文章力のスキルアップとなる取り組みを検討する。また、探究型学習ではラーニングスキルの育成の中で、データに基づく論証を意識させる指導方法を検討する。(0403-02)

学習 (04) : 効果的な教育の保証 Learning (04) : Ensuring effective education	【教務委員長】 ● K-12 の学習と指導を体系化する一貫カリキュラムを再確認し、改善、再構築を行う。(0401-01) ● 各教科で K-12 教科内研修会を計画し、学齢に応じた指導方法や評価方法を検討する。(0401-02,0404-02) ● K-12 教科会で、児童生徒の知的好奇心を満たす教材研究を検討する。(0403-01)	【教務委員長】 ● K-12 の学習と指導を体系化する一貫カリキュラムについて、新学習指導要領に基づいているかの確認を行った。(0401-01) ● K-12 学内研修会や教科内研修を行い、各教科で指導方法などの検討ができた。(0401-02,0404-02) ● 児童生徒の知的好奇心を引き出す教材について、コロナ対応を優先したことにより、K-12 教科会で十分な話し合いの時間はとれなかった。(0403-01)	【教務委員長】 ● 2022 年度から段階的に実施される高等学校学習指導要領に基づいた一貫カリキュラムについても引き続き検討する。(0401-01) ● 各教科、自由研究、学びの技などで、思考力を高め、知的好奇心を刺激するカリキュラムを検討する。(0403-01,02)
	【生活委員長】 ● 礼拝、道徳、HR、TAP、カウンセラーワークショップ等で「心の教育」を実践する中、学齢に応じた教材と各ディビジョン相互の共通教材を準備し計画的に進める。(0401-03)	【生活委員長】 ● 礼拝、道徳、HR、TAP、カウンセラーワークショップ等での「心の教育」は、対面とオンラインを併用し実施した。学齢に応じた教材と各ディビジョン相互の共通教材を準備し計画的に進めるには至らなかった。(0401-03)	【生活委員長】 ● 「心の教育」礼拝、道徳、HR、TAP、カウンセラーワークショップ等は、更に ICT を活用した対面とオンライン併用を安定させる。また、学齢に応じた相互の教材を準備し計画的に進める。(0401-03)